

虐待・身体拘束について

こころやからだに深い傷を負わせる行為をしていませんか？

愛媛県地域密着型サービス協会 東予ブロック研修会



聖カタリナ大学人間健康福祉学部

秋山昌江

事例 1 倫理判断の視点から検証する

<p>視点 1 自律尊重の視点</p>	<p>本人の希望で自室に閉じ込めたわけではないので、視点 1 は満たしていない。</p>
<p>視点 2 善行の視点</p>	<p>どのような結果を予測するかによって判断は異なる。鍵をかけて外に出れないようにすることで他者が助かる場合には「悪い結果を避けてよい結果が得られる」と、閉じ込められない立場からは評価されると解釈できる。しかし閉じ込められた人にとっては、自由が奪われたり尊厳が傷ついたりして、良い結果が得られないばかりか、悪い結果を避けなかったと言える。</p>
<p>視点 3 悪不履行の視点</p>	
<p>視点 4 正義・公平の視点</p>	<p>法律や人権擁護などから、暴れる人の人権と危害を被る人の人権が平等に扱われないことが指摘できる。従って視点 4 は満たしていない。</p>

事例 2 倫理判断の視点から検証する

<p>視点 1 自律尊重の視点</p>	<p>利用者は立ち上がろうとしているが、介護者が座るように促すことで、利用者の立ち上がりたいたいという意思が尊重されていない。従って視点 1 は満たしていない。</p>
<p>視点 2 善行の視点</p>	<p>利用者と介護者の立場で解釈が異なる。利用者の立場からみた場合は、自分の行きたいところに行けず、したいことができず、自由を奪われたことに対して怒りが爆発する可能性がある。いくら優しい言葉で言ったとしても、利用者の行動を静止していることになる。</p>
<p>視点 3 悪不履行の視点</p>	<p>介護者の立場からみた場合、転倒を繰り返しているということから、立ち上がることにより転倒の可能性が高い。事前に起こりうる事故を避けることができる。</p> <p>このケースは、利用者の立場からみた場合は、非倫理的な行為となる。介護者からみた場合は、1, 2 は満たされないが、2, 3 は満たすことになる（倫理的ジレンマ）</p>
<p>視点 4 正義・公平の視点</p>	<p>座っていることを強要される人の人権と、他の利用者の人権が平等に扱われているかどうか疑問である。平等にケアを受ける権利があるにもかかわらず、なされない可能性がある。従って視点 4 は満たしていない。</p>